

高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日：2008年 4月 22日

1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	財団法人 水俣病センター相思社
連絡先・所属など	熊本県水俣市袋 34 電話 0966-63-5800 FAX 0966-63-5808 e-mail info@soshisha.org ウェブサイト http://www.soshisha.org/
調査研究・研修のテーマ	水俣市の廃棄物最終処分場建設予定地周辺の地質に関する調査研究

2. 調査研究・研修結果の概要

水俣市の水源地に、民間の産廃業者(株)IWD 東亜熊本が管理型産業廃棄物最終処分場の建設を計画している問題で、事業者は2007年2月に環境影響評価の準備書を提出した。現地は台地上の地形であり、事業者はその上に積み上げる様な形で処分場を計画している。その下の斜面には多数の湧水が存在し生活用水に使用している。周辺では土砂災害も発生し、事業実施区域内に断層が存在するなどの危険が存在するにもかかわらず、準備書では「地下水ではなく表流水」「地質構造上、土砂災害の危険性はない」「古い断層で危険はない」などと決めつけている。

処分場の危険性を科学的に明らかにするために、今年度は専門家の指導のもと、学習会と現地踏査を行い、地層の走向傾斜を測定し、地質断面図とフォトマップにまとめた。その結果、事業者の地質図に記載されていない地層が発見されるとともに、地質の基本的な把握の仕方が間違っていることが分かった。事業者の地質図においては、予定地の地層が一様に西方向に10度傾いているように記載されており、これが事業者が東側斜面には湧水がないと主張する根拠となっているが、実際の地層は火山活動によって起伏ができ、複雑に重なりあっていることがわかった。それとともに、昨年に行っている水質水量調査の結果と合わせて大森の湧水も処分場計画地の台地に胚胎する地下水であることが総合的に証明された。

地質調査と平行して、産廃阻止!水俣市民会議と協力し、搬入道路の交通量調査、水生昆虫調査、希少動物調査(カジカガエル、クマタカ等)、気象の調査を行っている。絶滅危惧種のクマタカの調査は、地元在住の、日本野鳥の会メンバーの協力をいただき、約半年間をかけて行い、現在も調査を継続している。気象については、気象庁の中田隆一先生の指導を受け、焼却灰の飛散する様子や、接地逆転層の生成状況などを観察した。また、4月に風速計を3基設置し、今後、1年間の定点観測を行う予定であり、今後も詳細データの収集・分析を通して、汚染物質の影響を明らかにしていく。

調査の結果は、説明会での事業者への質問や、住民意見書に反映され、水俣市長意見にも取り入れられている。また、1月の熊本県公聴会でも各方面にわたって調査結果に基づいた科学的な公述が数多くなされた。その結果、アセスメント審査会では事業者の杜撰な調査に対して厳しい指摘が続出し、3月に熊本県知事からIWD東亜熊本に出された知事意見では、ほとんど全調査項目にわたって、調査や評価のやり直しが求められている。このことは、私たちの活動の大きな成果と言える。

3. 調査研究・研修の経過

- ・ 4月9日 事業者の湧水再調査に立ち会い
- ・ 4月20日 地質調査に関する事前学習会
- ・ 5月13日 第二回環境影響評価準備書説明会。事業者は説明会を強引に打ち切る
- ・ 6月3日 地質調査（第1回）。6名参加。鹿谷川沿いの白岩火砕流・降下火砕物・輝石安山岩溶岩の層を観察
- ・ 6月5日 環境影響評価準備書に対する住民意見書を事業者に提出（意見書総数 33,495 通）
- ・ 6月15日 搬入道路で交通量調査
- ・ 7月6日 熊本県に説明会の再度開催を事業者に指導するように申し入れ（150名参加）
- ・ 7月9日～ 市内19カ所で産廃問題の現状についての説明会を実施
- ・ 7月25日 産廃阻止！水俣市民集会（300人が参加）。長谷義隆元熊本大学教授による地質と湧水についての講演
- ・ 7月28日 地質調査（第2回）。鹿谷川・湯出川合流部、鹿谷川沿い斜面の湧水地点を調査。4名参加
- ・ 7月末～ 野鳥の調査を開始
- ・ 8月18日 鹿谷川でカジカガエルの調査。5名参加
- ・ 8月25日 湯出川下流で水生生物調査。15名参加
- ・ 9月1日 鹿谷川・湯出川合流点で水生生物調査。3名参加
- ・ 9月8日 水俣市で開催した日本科学者会議シンポジウム「産廃処分場と環境問題」に協力
- ・ 10月6日 水俣市の地質報告書についての学習会
- ・ 10月 地質調査（第3回）
- ・ 11月18日 気象に関する講演会。講師：中田隆一先生（元気象庁予報官）。約50人参加
- ・ 12月22日 焼却灰の飛散実験（桜野上場茶園）。3名参加
- ・ 12月16日 たき火で接地逆転層の観察。4名参加
- ・ 12月27日 熊本県に水俣市長意見を提出
- ・ 1月25日 野鳥に関する学習会。30名参加
- ・ 3月15日 助成事業報告会開催（15名参加）
- ・ 3月19日 43項目の熊本県知事意見がIWDに出される
- ・ 3月20日 産廃問題パンフレット作成、配布。
- ・ 3月30日 産廃阻止！市民集会開催
- ・ 4月1日 三箇所に風向風速計を設置。1年間の定点観測を開始
- ・ 4月2日～3日 IWD海老名本社、親会社の東亜道路、環境省等に計画中止要請。東京集会を開催

4. 調査研究・研修の成果

- ・ 学習会と現地踏査を行い、地層の走向傾斜を測定し、地質断面図とフォトマップにまとめた。その結果、事業者の地質図に記載されていない地層が発見されるとともに、地質の基本的な把握の仕方が間違っていることが分かった。事業者の地質図においては、予定地の地層が一様に西方向に10度傾いているように記載されており、これが事業者が東側斜面には湧水がないと主張する根拠となっているが、実際の地層は火山活動によって起伏ができ、複雑に重なりあっていることがわかった。
- ・ 事業者は、現地の豊富な湧水を、事業者の準備書では「地下水ではなく表流水」などと決めつけているが、地質踏査と湧水の水質と湧水量などを元に、地下水に由来する湧水であることを科学的に証明した。
- ・ 産廃阻止！水俣市民会議と協力し、搬入道路の交通量調査、水生昆虫調査、希少動物調査

(カジカガエル、クマタカ等)、気象の調査を行った。絶滅危惧種のクマタカの調査は、地元在住の、日本野鳥の会メンバーの協力をいただき、約半年間をかけて行い、現在も調査を継続している。気象については、気象庁の中田隆一先生の指導を受け、焼却灰の飛散の様子や、接地逆転層の生成状況などを観察した。また、4月に風速計を3基設置し、今後、1年間の定点観測を行う予定であり、今後も詳細データの収集・分析を通して、汚染物質の影響を明らかにしていく。

- ・ 調査の結果は、説明会での事業者への質問や、住民意見書に反映され、水俣市長意見にも取り入れられている。また、1月の熊本県公聴会でも各方面にわたって調査結果に基づいた科学的な公述が数多くなされた。その結果、アセスメント審査会では事業者の杜撰な調査に対して厳しい指摘が続出し、3月に熊本県知事からIWD東亜熊本に出された知事意見では、ほとんど全調査項目にわたって、調査や評価のやり直しが求められている。このことは、この処分場計画が以下に環境に多大な影響を与えるかを間接的に示しており、私たちの活動の大きな成果と言える。

5. 対外的な発表実績

< 発表等 >

- ・ 2007年6月5日 環境影響評価準備書に対する意見書を事業者に提出
- ・ 2008年1月12日 水俣病事件研究交流集会で調査報告
- ・ 2008年1月14日、18日 環境アセスメントの熊本県公聴会にて公述
- ・ 2008年2月19日 県庁前で、絶滅危惧種のクマタカの保護を求めるピラを配布
- ・ 2008年3月15日 助成事業報告会開催
- ・ 2008年4月2日～3日 IWD海老名本社、親会社の東亜道路、環境省等に計画中止要請。東京集会を開催

< 雑誌・書籍への掲載 >

- ・ 相思社機関紙『ごんずい』99号、101号、103号などで調査の経過や準備書等の問題点を報告
- ・ ロシナンテ社『むすぶ』誌（'07年3号）に事業者説明会の報告を寄稿
- ・ ロシナンテ社編『川辺の民主主義』（アットワークス、2008年4月発行）に寄稿

6. 今後の展望

- ・ 準備書に対する県知事意見で調査や予測評価のやり直しが指摘された事項について、事業者の調査がきちんと行われるのかどうか監視する。
- ・ 調査によって明らかになった事業の危険性を示し、事業者や株主には事業の中止を、県には事業の不許可を訴える。
- ・ 昨年度の成果を踏まえて、野鳥の生態調査、水生生物の調査、交通・騒音・振動の調査、気象の調査を行う。

高木基金へのご意見

今年も助成をいただきありがとうございます。経済的な面だけでなく、高木基金を通じた全国の方々とのネットワークも大きな力になっています。

7. 完了報告 英文概要

Recipient Name	Minamata Disease Center Soshisha
Belonging / Contact Address < 公表可能な問い合わせ先・ メールアドレスなど >	34 Fukuro, Minamata-shi, Kumamoto-Ken, 867-0034 Tel: 0966-63-5800 Email: info@soshisha.org
Theme of Research/Training	Research on geological feature around the planned industrial waste disposal site in Minamata city.
Name of the Organization Providing Training < 研修の該当者のみ >	

< 以下の空欄に前記 2 . に対応する内容を英文で記載して下さい。 >

IWD Toa Kumamoto Co., Ltd, which is the private industrial waste supplier, has been planning to construct the industrial waste disposal site on the fountainhead of Minamata city. The enterprise has submitted the preparation report of environmental assessment book in February 2007. The spot is the plateau-shaped topography and the enterprise plans to pile up the industrial waste on that top. There are a lot of springs on the lower slope and the residents use spring water as their life water. Around this area, the earth and sand disaster occurs and there are dislocations in the implementation area. Although dangerous factors exist as they are mentioned above, the enterprise concluded in the preparation report that “they were not ground water but surface running water,” “according to the structure of the geological feature, there is no danger of the earth and sand disaster,” “there is no danger because they are old dislocations,” and so on.

To clarify danger of the disposal ground scientifically, we had study program and made some on-site survey of the running direction and slant of the strata with the guidance of the experts. Based on these surveys, we made geological cross section map and photomap. As a result, we found out that there are some strata, which were not mentioned in the geological feature map and IWD Toa’s way of understanding of geographic feature is wrong. In the geological map made by the enterprise, it was mentioned that the stratum of the planned site is inclined to the west direction by 10degrees equally. Based on this, the enterprise insists that there is no spring on the east slope. However, we found that the real stratum had been on top of one another complicatedly because volcanic activities made the surface of strata uneven. We also have surveyed quality and quantity of water since last year. Based on the results of our surveys, it is comprehensively proved that spring water of Omori area is underground water containing in the plateau of planned site.

In parallel with the geological survey, cooperating with Minamata citizens’ council, we investigated the traffic density of the transportation road, aquatic insects, precious animals, and weather. Regarding the investigation of the hawk eagle of the endangered species, with the cooperation of the members of Wild bird Society Japan, we have been conducting investigation for half a year. About the weather, with the guidance of Mr. Ryuichi Nakata of the Meteorological Agency, we observed the state of the ash scattering and the inversion layer. In addition, we installed three anemometers in April and we are going to observe for a year at the fixed points and would like to clarify the influence of the pollutants though collecting and analyzing data in detail later.

The results of our investigations were reflected by questions to the enterprise at the briefing session and inhabitants’ opinion book, and also taken in the opinion book of Mayor of Minamata-city. Moreover, in the public hearing of Kumamoto prefecture in January, a lot of scientific public statements were given based on our findings. As a result, the governor of Kumamoto prefecture sent governor’s opinion to IWD Toa Kumamoto co. ltd. in March and demanded that almost all investigation items should be done all over again. It may be said that this is a big result of our activities.